

# どんびま

2015年9月1日発行

発行者 椛の湖農業小学校

## 稲は捨てるどころなし

今年のキャンプはお天気に恵まれた。

今年はもの作りに「わら馬」が加わった。初心者は首・胴・足のバランスがくずれて、犬やキリンにもなってしまふものだが、農小の参加者の皆さんはちゃんと馬になっていた。

稲は、実は米で食し、もみ殻は肥料・保温材などになり、わらは神様の領域を示す注連縄をはじめ農作業などに使われる縄の他に、様々な生活用品を作って利用されてきた。わら草履などは生活の必需品であった。わらは一本丸ごとだけでなく、用途にあわせて部位だけを使うこともある。わらは藁と書く。つまり「木」よりも価値の「高」い「草（くさ）」なのである。

農小は、稲の文化・農村の（古い日本の）文化を伝えることも使命と考えている。

農小では、今は布草履になっているが、以前はわら草履を教えてもらっていた。冬の課外授業では、小林銷男さんの指導で注連縄作りもする。自分で作った注連縄や飾りで迎えるお正月はきっと素敵だろう。（草）



センニンソウ  
仙人草

## 9月授業日案内

### ●日程 9月13日（日）

受付 8:30～9:00

はじめの会 9:00～9:15

授業 9:15～12:00

（栗拾い・畑仕事）

**栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。**

**栗は有料です。時価で精算して頂きます。**

昼食 12:00～13:00

（松茸ご飯、お吸い物ほか）

授業 13:00～15:00

（稲刈り・バケツ稲品評会）

終りの会 15:00～15:30

●持ち物 手袋、タオル、雨具、  
着替え 買い物袋 食器、箸

☆バケツ稲を持参してください。

**品評会をしますので、必ずお持ち下さい。**

**どうしてもバケツごと持ってこられない方は、刈って稲束にしてお持ち下さい。**

●締め切り 9月7日（厳守）

●問い合わせ・緊急連絡

Tel.0573-75-4417

090-5110-9362（山内總太郎）

～とくちゃんの農小レポート～

## 久しぶり晴天に恵まれたキャンプ

今年は久しぶりに雨の心配の無いキャンプでした。川遊びも存分に楽しむことが出来たようです。翌日も晴天に恵まれた中で、物作り体験教室も行なわれ、待望の流しそ〜めんも大好評でしたが、藪の中から太く長い竹を切り出し、竹樋を作って頂いたスタッフには感謝一杯です。

### \*第一日目

- 1 畑の作業。 南瓜とじゃがいもの収穫。南瓜は生徒達が種から育てたものです。じゃが芋は先月天候が悪くて堀残したもの。白菜の種まき。白菜は各Gごとにポットに小さな種を蒔きました。
- 2 川遊び。 川上川（かわうえがわ）に移動して、お弁当を食べたり川に放流した鱒のつかみ取りに挑戦しました。
- 3 椈の湖オートキャンプ場に移動。 キャンプ場に移動して、チェックインの後テントの設営などを行いました。
- 4 夜店の準備。 16時より各グループ毎にテント1張りを使い、スタッフも参加して夫々担当の料理に奮闘しました。
- 5 夜店開店。 17時に盛り沢山のメニューによる夜店が開店しました。西側テントから順に。\*フルーツポンチ・野菜サラダ、冷奴。\*フランクフルト・烏賊リング焼き。\*フライドポテト・フライドチキン。\*鱒塩焼き・ピーマン焼き・焼きおにぎり、焼き鳥。\*やきそば（塩味・ソース味）。\*生ビール・お茶。\*豚の丸焼き。\*きうり・トマト・ししとう・唐辛子。などなど盛り沢山でした。
- 6 カブト虫運動会と表彰。 夜店に先立ち行なわれた8月の競技と、7月に行なわれた競技の表彰が有りミニトマトが賞品となりました。8月の成績は、優勝4G岩田悠朔。2位4G幸繁龍ノ介。3位4G岩田朝陽。4位4G上野山湧人。以上の皆さんでした。
- 7 キャンプファイヤー。 点火に先立ち山内先生のリードにより、輪になってゲームをして皆と仲良しになりました。火の長(斉藤茂先生)を先頭に各G長達の松明行列が有り、火の長のメッセージを受けた後一斉に点火され、赤々と燃え上がり歓声があがりました。キャンプファイヤーを囲んで「春駒」「木曾節」など盆踊りを楽しみました。
- 8 グループの出し物。 \*3Gは「宝さがし」時間内に探して戻って来て点数を競うと云うゲームでした。\*1Gは「O×クイズ」で農小に関係する問題もでてきました。\*4Gは「ボーリング」空き缶をピンに見立ての点数を競うゲームです。\*2Gは「缶積み」空き缶を数個積み上げ何組出来たかを競うゲームでした。最後は5Gの「肝試し」でしたが、感想を聞くと「余り怖くなかったよ」と云う声が多かったようでした。そういえば悲鳴はほとんど聞けなかったかな・・・

## 第二日目

1 物作り体験教室。 8時より事前に申し込んである課題に取り組み、夏休みの宿題？つくり奮闘しました。

\*木工。木切れを利用した作品作りで、思い思いのアイデアで仕上げました。

\*竹細工。 サンプルを見本に孟宗竹や真竹を使い、竹ケンや竹ポックリ又竹とんぼなど数種類の作品ができあがりしました。

\*染物。 絞りによる藍染めで、主にTシャツを絞り世界に一枚のマイTシャツを完成させ大満足の様子でした。

\*布草履作り。 今回は参加者少なくてマンツーマンの手ほどきを受けました。

\*藁(わら)馬作り。 坂下には「花馬祭り」と云う伝統行事があり、藁馬は郷土民芸の一つで、今では製作者が当校の佐々木先生一人となっています。

\*タイルアート。 農場長の計らいで入手したタイルを提供して頂き、板にボンドで貼り付けて模様を描き、いろいろな作品をつくりました。

\*いずれの作品も11月卒業式には、作品展を行ないますので必ず出展して下さい。

2 流しそ〜めん。 昼食は恒例の「流しそ〜めん」です。今年は竹カップを作りましたので、青竹樋と相まって趣のある流しソーメンではなかったかと・・・毎年のように竹樋の持ち帰り希望者がありますが、何と云っても長さが問題でして・・・ご希望には添えません。

3 案山子。 出来上がった案山子を陳列して人気投票をしました。一家族2票あての投票用紙をもらい、気に入った作品に投票しました。人気投票上位には卒業式に表彰があり賞品がでますのでご期待ください。

4 持ち帰り。 生徒達が種から育てた南瓜一個。じゃが芋は先月天候が悪くて掘り残したものでした。

南瓜は数週間から一ヶ月ほど、寝かせたものが甘味が増すようです。また沢山でお困りの方はスープにしての保存が良いかも。

## 〜とくちゃんのちょっと一言〜

私の子供の頃は物の無い時代でしたので、遊び道具や玩具は殆んどありませんでした。今の子供ほど勉強はせず専ら遊びに夢中になっていましたが、しかし子供も人手間の一員でしたので、中なか自由に遊ぶことは出来なかったのです。暇を見つけての遊びの道具は殆んど自分達で工夫していました。この時季思い出すのは竹昇りです。竹やぶに入り数メートル登って竹がしなると次に移り、鬼ごっこをしながら身軽に藪の中を遊園地気分ですんでいました。

時には「やまかがし」と云う藪に棲む毒蛇に出会うこともあり、大騒ぎをしますが中には勇敢な子も居て、蛇を手で掴んでしまう事もありました。私の実家は裏が広い竹藪でしたので、今頃になると竹皮が落ちるので拾い集めて小使いにしました。竹皮羊羹の表装用ですが羊羹は口にすることは有りませんでした。

例年この時期は、必ずと云うほど雨に遭遇しますが、今年はほんのちょっぴり30分程で済みました。ファイヤーストームの頃にはすっかり雨は上がり、ファイヤーを囲んでのひと時はとても楽しい時間でした。

～あぼ兄の百姓ぼなし～

## あぼ兄の健康法 その3 あじめコショウ

キャンプの夜、持参した「あじめコショウ」を何人かに食べてみるよう勧めた。まともに食べた人はさあ大変。辛い辛い！ヒーッヒーッ！と大騒ぎ。普段、唐辛子をそのまま食べる習慣が無い人は辛さに驚いたようだ。あじめコショウはあぼ兄たちの地域でだけ作られてきた、岐阜県伝統野菜に認定されている唐辛子の名前である。

思い返せば今から30年ほど前になるが、あぼ兄はあじめコショウで悪戯をしていた。夏になりキャンプやバーベキュー等の集まりがあると、近くの若い衆が野菜を買いに来た。あぼ兄は、タマネギ、ジャガイモ、ピーマンなどの中にあじめコショウを入れておいた。世話人にだけは「これは辛いから・・・」と伝えて、内緒にして皆に食べさせるよう頼んだ。会が始まりしばらくすると、水場へ走って行く者が出るはずだ。後で、被害者が何人あったかを報告してもらい、その数と反応の面白さで野菜の値段を決めたものだった。

そんな悪戯を続けている内に、「辛いもの好きは人柄が良い」何人かと知り合った。その人たちと唐辛子の会を作ろうとしていた矢先、椀の湖農業小学校を舞台に「土」をテーマにして「テレビ博物館」の取材を受けた。5週連続放送の企画で、レポーターの川津祐介さんは「農と食」に造詣が深く、「唐辛子好き」は別格だった。会うたびに話が弾み、川津さんに名誉会長になっていただき、一気に同好会「好辛倶楽部」を立ち上げた。その名は、あぼ兄の家の前にある日本三大庚申の一つである下野庚申堂をもじった。

当初からテレビ取材が立て続いた。新聞、雑誌の取材ラッシュにも驚いた。以来17年の内に、全国に500名余の会員ができた。

「唐辛子は血行を良くし、体脂肪を燃焼する」ものと理解していた。ある日、中日新聞の第一面「唐辛子(カプサイシン)と豆腐(大豆のイソフラボン)を合わせて食べると、髪が見る見るうちに生える・増える」という記事にびっくりした。早速、中京大の野原先生の案内で、中津支局の記者も同道して、研究発表者の名市大の岡嶋研二先生に面会した。今までの活動を説明して、その年の総会の記念講演の講師を依頼してきた。

岡嶋先生によると、唐辛子は髪だけでなく、身体にも良い。「美肌効果、抗うつ効果、生活習慣病予防効果、免疫力を高める効果、および認知機能改善効果」などがあるという。健康な人はさらに「朗らかになる」という。確かに好辛倶楽部は笑い声が絶えない。

身体に良くて辛いからイヤで終わらないで、脳と相談しながら楽しく食べるのが唐辛子の健康法だ。好辛倶楽部は「唐辛子を脇役から主役に」しようと、「あじめコショウ入り商品」の開発をしてきた。担当は農小でもお馴染みのトクちゃん(小林銷男さん)である。味噌に始まって、カレー、飴、ケチャップ、パン、うどん、最近ではかりんとう等々。

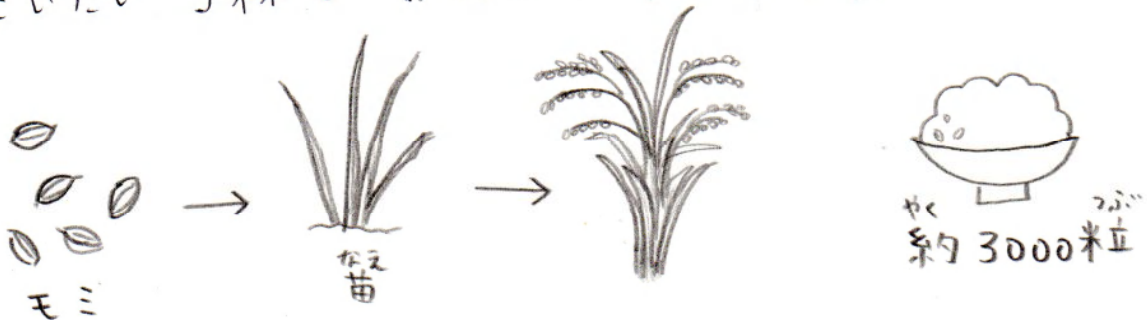
あぼ兄も、毎日唐辛子は欠かさない。夏の収穫期には、短く切ったしょう油漬、仲間が作って届けてくれた味噌漬などで食べる。朝5時起床、収穫をして市場へ、夕方5時から又収穫して片付けると7時、夏の毎日がこのパターンだ。今年の暑さに耐えられたのは、タマネギとアジメコショウのおかげだろう。あぼ兄の髪の毛は、増えたかどうかはよく分からないが、白髪がなくなって確かに髪が黒くなった。

あじめコショウは多くの仲間と笑い声を作った。あぼ兄にとって、あじめコショウは身体も心も元気になる、なくてはならない野菜である。

# かなちゃんの虫日記～

小さい頃、ごはんを食べた後におちやあんにごはん粒が  
 残っていると「目がつぶれるよ。」と言われました。お百姓さんが  
 一所懸命作ったごはんを粗末にしたらいけないよと。  
 月音くん(11か月の息子)はごはんが好きでごはんならパクパク食べて  
 くれます。でも満腹になるとごはんをにぎってたたいて出す。  
 会話できるようにになったら目がつぶれるよと言おうと思います。

ところで、お米1粒というのはすごいんですよ!! 5月に田植え  
 した時、苗を3～5本ずつ植えましたよね。それが成長すると  
 くまが20本くらいに増えて、1本にモミが60粒くらいついて、  
 たいたい3株でおちやあんに1杯分です。



また、ちがう意味でもお米1粒は重要ですよ。たまに  
 ごはんの一部が黒い米粒がまじっていることがありますか。

あれはカメムシのしわざです。モミの成長中にカメムシに  
 吸われると黒いあとが残ってしまいます。玄米とよばれます。

農家さんはお米を売るとき、お米の検査を受けるとは、  
 玄米とよばれます。

玄米とよばれます。等級が下がってしまいます。  
 玄米は食べても害はないし、味も分からないです。

